

令和 6 年度「全国学生調査（第 4 回試行実施）」実施概要（案）

令和 6 年 4 月現在

1. 背景・目的

「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（平成 30 年 11 月 26 日中央教育審議会）においては、学修者本位の教育へ転換を図るとともに、各大学が教育成果や教学に係る取組状況等の大学教育の質に関する情報を把握・公表していくことの重要性を指摘する一方、「社会が理解しやすいよう、国は、全国的な学生調査や大学調査を通じて整理し、比較できるよう一覧化して公表すべき」と提言された。

海外の状況に目を向けてみると、National Student Survey (NSS : イギリス政府機関) や National Survey of Student Engagement (NSSE : アメリカ大学研究機関)、Cooperative Institutional Research Program (CIRP : アメリカ大学研究機関) に代表されるような大規模な学生調査が実施されており、学生の学修等の状況を把握するとともに、得られたデータをエビデンスデータとしてアクレディテーションに利用することや、教育内容の改善などに活用することが一般的に行われている。この点、我が国においては、近年の IR (Institutional Research) 活動の拡大により、各大学個々による取組は行われているものの、未だ全国的な広がりはなく、国においては、国立教育政策研究所が学習状況に関する調査を実施しているが、全大学を対象とするものでなく、大学教育に関して、学修の主体である学生目線からの網羅的な状況は把握されていない。

また急速な少子化の進展等、高等教育を取り巻く環境が大きく変動する中において各大学は社会が期待する役割や求める人材像を自ら把握し意識しながら、各自の強み・特色を生かした教育研究活動について積極的に発信し、国際社会を含む外部からの理解と信頼を得ていくことがこれまで以上に求められている。

このような状況を踏まえ、学修者本位の教育への転換を目指す取組の一環として、①各大学が自大学の学生の実態や意識を踏まえた教育改善に活用すること、②大学進学希望者やその保護者あるいは地域社会、産業界等から、各大学における学生の学修成果や大学全体の教育成果にこそ関心を持ってもらい、大学に対する理解を深めてもらうこと、③今後の我が国における政策立案に際しての基礎資料として活用すること、さらに、④学生一人一人にとって、これまでの学びを振り返ることで今後の学修や大学生活をより充実したものにしてもらうことや、卒業後の社会における自らの姿を考える上での一つの契機としてもらうことを目的に、「全国学生調査」を実施する。令和 4 年度においては、令和 6 年度以降に予定している本格実施における調査方法や設問項目の骨格を定めるべく試行実施として行うこととしている。

2. 調査対象

参加意向のあった大学※（短期大学を含む。）の学部（短期大学は学科。）に在籍する、2 年生及び最終学年生（短期大学は最終学年生のみ。）

※通信教育課程に在籍する学生は対象外とする。

3. 調査方法

参加大学が以下の調査方法①～②から選択

- ① 文部科学省が実施するインターネット（WEB）調査（文部科学省が指定するURLに学生が直接回答）
- ② 参加大学が実施する学生調査（大学独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）

《留意点》

○調査方法②について

- ・各大学において、調査結果を取りまとめ、文部科学省が指定する期日までにデータ等を提出する。
- ・データ等の提出にあたっては、文部科学省が別途指定する様式にて提出する。

4. 調査実施時期

令和6年10月～令和7年3月（約6か月間）のうち、各大学において1か月程度の期間設定を推奨。調査方法②の調査実施時期は、各大学の判断で令和6年度中に設定することができることとする。

5. 質問項目

選択式33問程度、自由記述式1問（別紙のとおり）

《留意点》

○本格実施においては、当面、原則として本試行実施の質問項目から変更しない。

○調査方法①について

- ・インターネット（WEB）調査にて、大学独自の質問項目を設定できるよう検討。

○調査方法②について

- ・調査結果の比較分析ができるよう、各大学の学生調査では、本調査の質問項目は変更せず同じ文言に設定する。
- ・大学独自の質問項目は、本調査の質問項目とは別に設定する（当該回答データ等の提出は不要）。

6. 調査結果の取扱い

（1）文部科学省

調査結果として、回答全体の集計結果^{※1}、問1～4の各質問項目において肯定的な回答割合が高かった大学・短期大学に限定して学部（学科）ごとに上位順に一覧化したもの（以下、「ポジティブリスト」という。）^{※2}及びこれらの大学・短期大学の教育方法・教育改善の取組事例や、これまでの試行実施を踏まえ本格実施に向けて更に検討が必要な事項等を文部科学省ホームページで公表する。

集計に当たっては、全ての調査項目（自由記述を除く。）に回答したものを「有効回

答」として集計する。なお、分析に当たってはデータの代表性を確保する観点から、以下の集計基準に合致した学部の回答のみを分析対象にすることがある。

【集計基準】

対象学部の学生数が、

「 60 人以上 80 人未満のとき、有効回答者数 30 人以上」

「 80 人以上 200 人未満のとき、有効回答者数 40 人以上」

「 200 人以上 600 人未満のとき、有効回答者数 50 人以上」

「 600 人以上 のとき、有効回答者数 60 人以上」

又は「 60 人未満 のとき、有効回答率 50 %以上」

※¹ 回答全体の集計結果に加えて、設置者別、学部規模別、学部分野別、学年別に加えて、設置者別と学部規模別の回答状況の組み合わせ、学部分野別と学部規模別の回答状況の組み合わせなど、調査結果の活用にあ資する形での集計を行う。

また、試行実施においては、回答全体の集計結果として、有効回答者数、有効回答率のほか、各質問項目の選択肢ごとの回答割合等を公表する（自由記述を除く。）が、個別の回答を一覧化したものや、大学・学部単位の集計結果（ポジティブリストを除く。）の公表は行わない。

※² 原則として、集計基準に合致した参加大学の学部（学科）を分野別（一定数の母集団が得られることが前提）に一覧化し公表することを予定しているが、詳細な取扱いは、全体の回答状況を踏まえ、「全国学生調査」に関する有識者会議において検討を行い、文部科学省において決定する。

また、参加大学に対して、当該大学に在籍する学生の回答を一覧化したものや当該大学の調査結果の概要をまとめた様式等を調査結果として提供する。

（2）参加大学

自大学の調査結果について、学内において共有を図るとともに、IR や FD・SD 活動、自己点検・評価における活用や、他大学等との情報共有、学生・社会への自主的な情報公表等に活用することにより、自大学の教育改善を促進させるよう努めるものとする。

7. その他

試行実施は、「全国学生調査」の本格実施に向けて、適切な調査対象や質問項目等の調査設計を整理・検証するために実施するものである。

令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」質問項目（案）

（選択式33問・自由記述式1問）

文部科学省では、学生の皆さん一人一人の学びの実態を把握し、大学教育を改善していくための「全国学生調査」を実施します。（この調査では短期大学も「大学」と表記します。）

いただいた回答は、匿名により個人が特定されない形で所属大学へ提供し、各大学の教育改善に活用していただきます。（本人以外はどなたが回答したか分かりません。）

この機会に、皆さんの声をぜひ聞かせてください。

（所要時間：約10分）

※2年生の方については、Q29は表示されませんが、回答不要の設問ですので誤りではありません。

1. あなたが在籍する学部（学科）を選択してください。
2. 学部（学科）の分野を選択してください。（自動表示）
3. あなたの学年を選択してください。

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

（選択肢：①よくあった、②ある程度あった、③あまりなかった、④なかった）

4. 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。
5. 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。
6. 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。
7. グループワークやディスカッションの機会がある。
8. 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。
9. ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

問2

大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。経験していない場合は⑤を選択してください。

（選択肢：①有用だった、②ある程度有用だった、③あまり有用ではなかった、④有用ではなかった、⑤経験していない）

10. インターンシップ（5日間以上）
11. 海外留学・海外研修（短期も含む）
12. 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

(選択肢：①身に付いた、②ある程度身に付いた、③あまり身に付いていない、
④身に付いていない)

- 13. 専門分野に関する知識・理解
- 14. 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観
- 15. 文献・資料を収集・分析する力
- 16. 論理的に文章を書く力
- 17. 人に分かりやすく話す力
- 18. 外国語を使う力
- 19. 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能
- 20. 問題を見つけて解決方法を考える力
- 21. 多様な人々と協働する力
- 22. 幅広い知識、ものの見方
- 23. 異なる文化に関する知識・理解

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

(選択肢：①そう思う、②ある程度そう思う、③あまりそうは思わない、
④そうは思わない)

- 24. 大学から卒業時まで学生が身に付けるべき知識や能力が明示されている。
- 25. 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。
- 26. 教職員が学生と向き合って教育に取り組んでいる。
- 27. 大学での学びによって成長を実感している。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

(選択肢：①0時間、②1-5時間、③6-10時間、④11-15時間、⑤16-20時間、
⑥21-30時間、⑦31時間以上)

- 28. 授業への出席
(実験・実習、オンライン授業を含む)
- 29. 卒業論文・卒業研究・卒業制作 (Q3で2年生を選択すると非表示)
- 30. 予習・復習・課題など授業に関する学習
(卒業論文等は除く)
- 31. 授業と直接関係しない自主的な学習
(学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等)
- 32. 部活動／サークル活動
- 33. アルバイト／定職

34. 本調査や、大学での学びについて意見がありましたら教えてください。(自由記述)

【調査方法①のみ】

※匿名調査のため、自分自身や他人の個人情報は入力しないでください。

質問は以上です。御協力ありがとうございました。いただいた回答の集計結果は、[文部科学省ウェブサイト](#)で公表（令和7年春～秋頃予定）しますので、ぜひ御覧ください。

（大学や社会に対して、個人が特定される形であなたの回答内容が公表されることはありませんので、御安心ください。）